

## 第13回通常総会開催される

第13回通常総会が、令和4年6月21日午後2時から千葉市美浜区新港の土地改良会館で、会員総数144会員のところ、出席122会員（本人出席23会員，書面議決出席99会員、委任状提出者 無し）で開催されました。

まず、近藤事務局員の司会で開会し、会員の出席状況の報告があったのち鴛崎副理事長の開会宣言、相川理事長の挨拶がありました。また、議長には司会者が出席者に諮り、山下一士会員が満場一致で選任されました。議事に先立ち議長より議事録署名人2名を選任したい旨の発言があり、芦川義勝及び斉藤直良の両会員を指名しました。

続いて議事に入り

議案第1号 令和3年度事業報告並びに決算について

議案第2号 令和4年度事業計画について

議案第3号 令和4年度の会費及び納入方法について

議案第4号 令和4年度予算について

議案第5号 令和4年度一時借入金限度額並びに借り入れ方法について

議案第6号 令和4年度会費等の積立金並びに余裕金の預入先について

議案第7号 役員改選について

の7議案が上程されました。第1号議案から第6号議案までは、事務局からの議案説明のあと質疑応答があり6議案とも賛成多数で可決されました。

また、第7号議案については、薄井事務局長から説明があり、議長の指示により事務局案を諮ったところ、満場一致をもって「杉野理事長ほか、理事12名、監事3名」の役員全員が選任されました。

以上で本会議に付議された議案は全て終了した旨の議長発言があった後、議事を終了しました。最後に鴛崎前副会長が閉会を宣言し午後3時00分総会を終了しました。



通常総会の様子

### 杉野新理事長挨拶

6月21日の総会において4代目の理事長に選任されました杉野です。千葉県土地改良事業団体連合会副会長常務理事との兼務となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

多くの諸先輩方がおいでの中で、この様な大役をいただき責任の重大さに身の引き締まる思いです。新たに滝口・松田両副理事長並びに理事・事務局の皆様と、また、関係機関と協力しながら、NPO法人「水土里支援パートナー」の活動を活発化させていかなければと思っています。

この「ちば水土里支援パートナー」という組織については、平成22年度の設立以来、東日本大震災の災害復旧対応や現場管理業務、土地改良協会事務支援など様々な活動に取り組んできましたが、この数年、会員の高齢化や各種支援業務の減少など活動については、厳しい状況と伺っております。

しかしながら農業農村整備に長年携わってきた経験を地域の維持発展のために活かして行くことがまだまだ求められています。農業・農村を取り巻く環境は非常に難しい時代ですが、今まで続けてきた活動の意志を引き継ぎ、会員の皆様と一丸となって歩んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、相川前理事長をはじめ今期で退任された役員並びに事務局員の皆様のご活躍に敬意と感謝を申し上げますとともに、「ちば水土里支援パートナー」と益々の発展と会員の皆様のご繁栄とご健勝を祈り就任の挨拶と致します。

よろしく願いいたします。

#### 令和 4 年度 役員名簿

役 職	氏 名	選出区域・団体	役 職	氏 名	選出区域・団体
理事長	杉 野 宏	千葉・市原	理 事	及 川 忠 信	夷 隅
副理事長	松 田 晴 夫	君 津	理 事	神 作 憲 二	安 房
副理事長	滝 口 広 明	前両総土地改良区	理 事	染 谷 正 司	前東葛北部 土地改良区
理 事	石 川 文 彦	東 葛 飾	理 事	近 藤 裕 之	県 外
理 事	兼 坂 達 夫	印 旛	監 事	宮 内 清	借当川沿岸 土地改良区
理 事	柿 木 泉 一	香 取	監 事	高 橋 修	鹿 島 川 土地改良区
理 事	亀 岡 健 三	海 匝	監 事	岩 澤 まゆみ	両総土地改良区
理 事	宇 井 哲 也	山 武	顧 問	相 川 文 明	前理事長
理 事	綱 康 次 郎	長 生			

#### 事務局

役 職	氏 名	選出区域・団体	役 職	氏 名	選出区域・団体
事務局 長	兼 坂 達 夫	印 旛	事務局	石 井 和	君 津
事務局	近 藤 裕 之	県 外	〃	薄 井 厚	千葉・市原
〃	神 崎 英 一	印 旛	〃	根 本 茂	〃
〃	飯 田 厚	多面的機能（協）	〃	豊 川 忠 幸	〃
〃	田 村 利 夫	千葉・市原			

## 相川前理事長退任挨拶

今年は梅雨明けが例年より早く、これから暑い夏が到来かと思っていたら、梅雨前線が再度日本列島に長く停滞したことにより、毎日梅雨空が続いていましたが、7月の三連休後からは暑さが戻り、農作業も全開状態となって来ました。

世の中は毎日のようにロシアのウクライナ侵攻と侵攻に伴う穀物不足や原油価格の高騰、そしてと何十年ぶりかの円安等が続いており、特に品不足による物価の高騰は我々の生活に密接に影響を与えております。農家においては肥料やビニール等の資材価格が高騰して農業経営が厳しさ増しております。

私どものNPOの状況についてお話をさせていただきますが、NPOを運営していく上では、会員からの年会費の他にも事業収入が必要となります。

県土連や安房中央土地改良区からの土地改良区体制強化支援事業や園芸協会（農地中間管理機構）からの農地耕作条件改善事業、そして各地域の土地改良協会からの事務受託、安房中央土地改良区からのダム点検業務等の事業収入がありました。皆様方にはご支援とご理解をいただき感謝を申し上げます。

農地耕作条件改善事業からNPOへの受託費は農地中間管理機構が国の補助金である基金からの支出だったそうです。

この基金も無くなり、4年度からはNPOに業務委託もできない旨を園芸協会から通告されました。今までNPOが農家支援してきた仕事はやらなくてもよくなったことではありません。国には従来通りの事業実績報告書を提出する必要があります。

それを誰がやるのかも決まっていなくて聞いております。待ち望んでいる農家のためにも、方策を講じて頂いて農地の利用集積向上をめざしてもらいたいと思います。

次に土地改良協会の事務支援は千葉土地改良協会の千葉支部と君津の協会から業務を受託しております。過去には市原支部からも受託をしてきました。

君津の協会は4年目に入りますが、役員会・幹事会等の回数や事務量は当初想定したよりも多く、このまま業務を継続していくには無理が生じました。このため令和5年度からは協会業務を遂行することは困難であることを、君津農業事務所にお話をしました。

4年前までは君津の協会で業務を実施してきた歴史もあるので、是非やって頂きたいと思っています。

今回の第13回総会は理事監事の改選となりました。第1回の理事会で承認頂き議案を提出させて頂きましたが、もっと早く世代交代をすべきであったと痛感した次第であります。

星川前理事長からバトンタッチされて、会社務めしながらの4年間でしたが、事務局長をはじめとする事務方の協力を得て無事大役を務めることが出来ました。

会員の皆様や関係機関の方々には、今後も後任の杉野理事長を筆頭とするNPOへ御支援・御協力をお願いいたしまして、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**NPO法人活動実績（令和4年年4月1日～令和4年7月31日まで）**

月 日	活 動 内 容
4月 1日(木)	耕友会事務処理支援業務受託契約
"	安房中央ダム定期点検業務受託契約
"	千葉土地改良協会千葉支部事務支援業務受託契約
"	君津地域土地改良協会事務支援業務受託契約
4月18日(月)	君津地域土地改良協会監査(袖ヶ浦市)
4月19日(火)	千葉土地改良協会千葉支部監査・役員会(千葉市)
4月21日(木)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
4月28日(木)	君津地域土地改良協会第1回幹事会(木更津市)
5月12日(木)	千葉土地改良協会会議(千葉・市原両支部)(市原市)
5月17日(火)	君津地域土地改良協会第1回理事会(木更津市)
5月19日(木)	安房中央ダム堤体観測(南房総市)
5月26日(木)	令和3年度水土里支援パートナー事業監査(土地改良会館)
"	令和4年度水土里支援パートナー第1回理事会(土地改良会館)
5月27日(金)	千葉土地改良協会千葉支部通常総会(千葉市)
6月 7日(火)	君津地域土地改良協会通常総会(木更津市)
6月21日(火)	令和4年度水土里支援パートナー第13回通常総会(土地改良会館)
7月 7日(木)	第28回「美しい農村環境写真コンテスト」審査会(土地改良会館)
7月12日(火)	新理事長登記変更申請(相川文明⇒杉野宏)
"	同上登記完了
"	安房中央ダム堤体観測(南房総市)

**<宮崎県の和田会員からの便り>**

宮崎県北諸県郡三股町

和田 昭 三

退職して早7年が経ちました。

退職後は、田舎で家庭菜園の夢を実現して日々作物の成長に奮闘しながら実りを楽しみにしております。

その傍ら前職が農業土木関係の仕事をしていたということで多面的機能支払交付金の書記(雑用係)をやらされています。

入庁当時は、よく手書きの図面を描かされていましたが、今も用水路の補修の図面とか超小型水門の補修の図面を描いて鉄工所や土建屋に発注しております。

コロナ渦の中、千葉には中々行けませんが、今後落ち着きましたら是非皆様にお会いできたらと思っております。

(本手記は昨年の11月にいただいたものです。掲載が遅れたことをお詫びします・・・事務局)

## 第28回「美しい農村環境写真コンテスト」の入選決まる

### 「ちば水土里支援パートナー賞

「美しい農村環境写真コンテスト」は、千葉県内の農村の緑豊かな自然景観や農村生活の様子など「誰もが住んでみたいと思う農村環境」をテーマに、千葉県土地改良事業団体連合会が主催者となり毎年実施しているもので、本年度で28回となります。

当法人としては、この「コンテスト」の開催主旨に賛同し、平成23年度から「ちば水土里支援パートナー賞」を設け、当写真コンテストを側面から応援しているところです。

### 「ちば水土里支援パートナー賞」受賞作品



「天日干し」(撮影場所: 銚子市 撮影者: 嶋田和子氏)

本年度の審査は、7月7日(木)に応募数143作品(59名)を対象に今回から、種清豊特別審査委員(日本写真家協会会員)をお迎えし、情報誌「水土里ネットちば」編集委員(県耕地課長、農地・農村振興課長、各農業事務所、県土連副会長)、当NPO法人杉野理事長等23名の審査委員で行われました。

審査の結果、「ちば水土里支援パートナー賞」は嶋田和子さんの「天日干し」が選ばれ、同時に「千葉県知事賞」等の各賞が決定し、知事賞には波多野保さんの「朝焼けの中を」が選ばれました。コロナウィルス感染予防のため、表彰は受賞者本人へは郵送で、入選・佳作合わせて19点の作品が千葉市の「きぼーるアトリウム」での展示が8月16日から19日の間行われます。

## 「千葉県知事賞」受賞作品



「朝焼けの中を」（撮影場所：いすみ市 撮影者：波多野 保氏）

### <編集後記>

令和4年度の通常総会が無事に終了し、新役員交代で事務局はちょっとした忙しさです。事務局も新たな人員で最小限の数でこれからの2年間を会員の皆様とともに当NPOの運営に努めて参ります。ここ2～3年にわたり、コロナウィルス感染症が蔓延し、今や、第7波に突入し、類を見ないほど感染の拡大が夥しい状況です。会員の皆様におかれましては、罹患しないような行動を一人一人が心がけ、手洗い、マスクなど基本的事項を厳守されるようお願い申し上げます。また、一方では天然痘に似たサル痘が日本でも確認され様々なウィルス感染症が今後とも発生してくる可能性が出てくることは、世界的に叫ばれている地球温暖化の影響があるのでしょうか？

最後に、前役員の方や前事務局員の方のこれまでの活動に対し、感謝申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。「ありがとうございました。」

「会費納入のお願い」、会費をまだ納めていない方はなるべく早く納入して下さるようお願いいたします。

### ちば水土里支援会報 第29号 (発行日 令和4年8月1日)

発行：特定非営利活動法人ちば水土里支援パートナー(発行責任者：杉野宏)

会員：正会員 124名・21団体 賛助会員 16団体

事務局：〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地8 千葉県土地改良会館別館

Tel 043-241-1755 <http://npochiba.boj.jp/npo/>

銀行口座番号：千葉銀行本店営業部 3908901 特定非営利活動法人ちば水土里支援パートナー

理事長 杉野 宏